

号外

琉球新報

THE RYUKYU SHIMPO

2010年（平成22年）
5月4日（火）

発行所 琉球新報社
郵便番号 〒900 8525
那覇市天久905番地
©琉球新報社2010年

首相「県内」伝達

普天間移設

全面県外を否定

知事は負担軽減要請



「平和の礎」を訪れた鳩山首相 4日午前、糸満市の平和祈念公園

鳩山由紀夫首相は4日午前11時すぎ、米軍普天間飛行場の返還・移設問題をめぐり、県庁で仲井真弘多知事と会談した。移設先をめぐり、鳩山首相は「すべてを県外でということとは現実問題としては難しい。できれば、沖縄の皆さま方に負担をお願いしなければならぬ」と述べ、全面的な県外移設を断念する意向を伝え、県内移設への理解を求めた。国外移設については「海外という話もなかったわけではないが、日米の同盟関係、近隣諸国との関係を考えたとき、抑止力という観点から難しく、現実には不可能だ」と明言した。移設先選定をめぐる迷走を念頭に、首相は「沖縄の人々におわびしたい」と陳謝した。

仲井真知事は先月25日に開かれた同飛行場の県外、国外移設を政府に求める県民大会に触れ、「県外移設実現を期待する県民の声が高まっている。県民の声を真摯に受け止め、危険性除去に取り組んでほしい」（最低でも県外との）公約に沿った満足、納得いく解決策を示してもらいたい」と述べ、県外移設を追求すべきだと伝えた。知事は「過重な基地負担の軽減は県民の願いだ」と、米軍訓練水域の返還なども求めた。

首相は午前9時すぎに自衛隊機で那覇空港に到着した。糸満市の平和の礎などを訪問した後、県庁に到着。仲井真知事と会談し、県外への全面移設を事実上断念したことを伝えた。

首相は、名護市辺野古のキャンプ・シュワブ沿岸部を埋め立てる現行計画を修正し、沖合の浅瀬にくい打ち桟橋(QIP)方式で代替基地を建設する案を念頭に、県内移設への協力を要請した形だ。鹿児島県徳之島への一部部隊や訓練の移転も想定しているとみられる。

正午前には高嶺善伸県議会議長とも会談した。